たつくり

題字
相田コマ顧問

女性部だより
調布市商工会女性部

〒182－0026
調布市小島町2－36－21
TEL 042－485－2214

笑顔あふれる行動力で!!

女性部長　根岸　玲子

今年私たちが迎える一年はデフレ経済から成長経済への重要な転換期にあたるのではないか・・・という声が聞こえるなか、私達女性部の役割は・・・笑顔あふれる行動力ではないでしょうか？

昨年を振り返ってみます。

昨年は十月にスポーツ祭東京二〇一三・・・国体の開催地という大きな行事に市内は大変な賑わい。味の素スタジアムが開会式から陸上競技・サッカー競技の本拠地となり、それに伴いイベントが女性部に・・・。テント活動です。

六月世界陸上の予選会
十月国体
十一月味の素スタジアム感謝デー

と事業を展開することになり・・・でも私たちの最大のイベントは、先人達が築いてきた〝商工まつり〟チャリティーバザーです。

この事業を無事に終了するには・・・。

雨は駄目です！本当に天気予報をこれ程気に掛けた事はありませんでした。

そして九月商工まつり。気にしていた天候が的中。台風に遭遇し、中止になってしまいました。

笑顔どころかショックが大きく、皆さんの好意でいただいたバザー用品をどうしたらよいか・・・どこかでバザーが出来ないか・・・、無理でした。

何年も続いた調布市社会福祉事業基金にも初めて寄付することが出来ませんでした。

「お金でできなくても、商品を贈呈すればよろしいのでは？」という局長さんに提案をいただき、そうさせていただきました。

やっと皆の笑顔が見られたのは、十月の国体の味の素スタジアムイベント会場で女性部の模擬店を開いた時です。

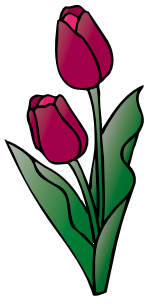
何を女性部のメインにするか？そこで誕生したのが、お好み焼〝ふみ焼〟です。集って何度も何度も練習し、出来上ったのです。

イベント会場は位置が悪かったのかお客様の足があまり無く、でも私達女性部の明るい呼び声でお客様が集り、焼いても焼いても間に合わない位売れ、焼き手も額に汗、首にタオルを巻き嬉々として焼き、手際も良くいつもの笑顔が帰ってきました。チームワークも素晴らしく女性部の〝絆〟が又深まりました。

それに加えて多摩川クリーン作戦です。ショッキングピンクのジャンパーを羽織り参加。どこにいても商工会女性部をアピールできています。

社会福祉協議会のお手伝い。日本赤十字献血活動に於いても商工会女性部の明るさは暑さも吹き飛ぶ笑顔の呼び声、素晴らしい存在感を感じるのは私だけなのか？

とにもかくにも経済が低迷している今、女性部の笑顔あふれる行動が地域振興発展や豊かなまちづくりの担い手になると信じます。



第二十八回通常 部員総会を開催

日　時　平成二十五年四月二十五日(木)　午後　六時
会　場　商工会館３Ｆ研修室
部員総数　一五一名
出席者　本　人　二十八名
　委任状　七十六名
　計　一〇四名
来　賓　五名
議　案
第一号議案
平成二十四年度事業報告並びに収支決算報告承認について
第二号議案
平成二十五年度事業計画並びに収支予算決定について

以上の議案が上程され、第一号～第三号各議案とも満場一致にて可決されました。

総会終了後【展望レストランたづくり】にて懇親会が行われ、来賓の皆様を含め和気あいあいとした雰囲気で新しい部員の方々とも交流を深める場となり、商工会女性部の歌、四つのお願いなど全員で歌い一体感のある懇親会となりました。

その後、お隣の会場で皇風関の後援会が行われており合流させていただき、皇風関を囲んでの記念写真も撮る機会にも恵まれました。

大場尚子

第六十六回　春の多摩川クリーン作戦に参加して

平成二十五年四月十四日（日）、多摩川を「きれいな親しまれる川」にすることを目的とする恒例の行事に参加しました。寒暖の差がはげしい日々が続いていましたが、丁度寒さがゆるみ清掃日和です。午前八時集合、自治会、少年野球、サッカーチーム、ボランティアの人達と共に女性部もピンクのジャンパーに着がえ清掃用具一式を受けとり、市長のご挨拶、担当の方の諸注意を受け清掃開始です。

今年は東京で第六十八回国民体育大会、第十三回全国障害者スポーツ大会が開催されるので、マスコットキャラクターの「ゆりーとくん」も応援にかけつけてくれました。右に左に歩きながらゴミを拾い集め大分ゴミが少なくなったように感じました。

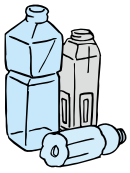
子供の頃、ボートに乗ったり泳いだりした！楽しい思い出の川が綺麗になっていくということは嬉しく思います。

九時終了、はればれした気持で帰途につきました。

広報委員　岡本伊都子

【春】四月十四日（日）
全体参加人数　一，二一三名
女性部員参加人数　十名
ゴミ収集量

可燃ゴミ	○・六八トン
不燃ゴミ	一・○○トン
ビン	一八○本
缶	八二○本
ペットボトル	六○○本
粗大ゴミ	○・五トン



女性部全国大会ｉｎ愛媛

『伊～予♡おいでよ”媛の国“～笑顔あふれる愛媛の出愛』のスローガンのもと、第十五回商工会女性部全国大会は、愛媛県で賑々しく開催され調布からは五名が参加しました。

昨日の嵐のような被害が出た台風は嘘のような快晴。台風一過の十月十七日、まだ薄暗い調布駅から空港までバスに乗り東京からの参加者は、早朝七時過ぎに空港に集合して羽田発八時の飛行機で瀬戸内海の島々を眼下に見ながら、松山空港に向かいました。空港より専用バスに乗り、ひめぎんホールに着きオレンジ色のジャンパーを着た愛媛県商工

会女性部連合会の、笑顔の皆様に迎えられました。

オープニングセレモニーは高校生の、力強い音楽と書道パフォーマンス「華」で幕を開けました。

式典では全国商工会女性部連合会末武会長から全国統一「五百円玉募金」の事業報告がありお礼の言葉がありました。大会セレモニーが終わり、いよいよ全国六ブロックに分け予選を勝ち抜いた各ブロック代表の主張発表大会です。

一番目は、苦労して試行錯誤のうえ特産物の自然薯と、近くの海で捕れた魚を使い、魚バーガーを作り苦しい試練に打ち勝って女性部同士の絆と団結力を深めて福井県おおい町を元気にした近畿代表。

二番目は、宮城県の踊りとお囃子の「はねこ踊り」で、地域のイベントや祭りを支えている。はねこ踊りの指導者だったご主人を亡くされたが、笑顔で踊りを通して地域活動に参加している。人と人との絆を大切にしている東北・北海道代表は、歌まで唄う頑張りでした。

三番目は、私たち女性部は、イベント屋さんではないが、自分達の商売を生かして町を元気にしたいと思い、特産物である生姜を使ってレモンの酸味をきかせた生姜シロップを作ったり、生姜サイダーやかりんとうまでつくってしまった。新しい事にチャレンジすることにより、気がつかなかった事を気づき意識が変わった。経理を細かくチェックし利益率を考えて無駄、むらを少なくした。それぞれのスペシャリストが、垣根を越えて自分の商売に生かす活動を目指す、と力強く発表した富山の中部ブロック代表。

四番目は美しい景色を見ながら、一歩一歩の野歩きをして、方言で話し相手という「話とぎガイド」で地域を知り、町おこしに貢献し、ある人はわらじ作りや、郷土の料理でおもてなし、日本の美しさを発見して、旅人の話し相手になる。自分たちのできる事をしようと「カントリーウォークでふるさと再発見」の発表をした大分県の九州代表。

五番目は「次世代を担う女子たちの勉強会」のタイトルで、平均年齢七十二歳。仲間意識が強く生涯現役の気持ちが強くて、若い人達を育てていなかったと気づいた。若い人向けのセミナーを開催して基本的なまちづくりの勉強をして若い人の活躍の場をつくってやり、若い人達は「勉強会」を求めている事がわかった。変わらなければいけなかったのは自分たちだったと気付かされたと、切々と話された静岡県の関東ブロック代表。

最後に中国・四国代表は、交通事故ワースト1の香川県は金比羅さんのある観光の町。手作りのマスコットを作り運転者におしぼりやマスコットを手渡し大切な人を守る為に、県をあげて交通安全を願い大きな事は出来ないが、出来る事を出来るときに、出来るだけ楽しく長く続けていこう。だれもが住みよいまちづくりにこれからも努力しますと締めくくった。

基調講演は『笑顔のちから』というテーマで講演。愛媛大学の落研のOBであり現在も落語を通じ、笑いを生かしてまちづくりを実践している精神科医の枝廣先生のお話は、おもしろく、おかしくて会場全員が『笑い』の効用を実感した。終わりに、主張発表大会の表彰があり、結果は、内容も素晴らしかったが、これからの商工会女性部のありかたを、考えさせられた中部ブロックが優秀賞だった。

地域や行政をも動かし地域の自立・活性化の為に、女性部員の事業への参加のきっかけを作り協力しあう。協調性を築き絆を深める。そのために自分は何が出来るのだろうか。何をすべきかと、真摯に向き合おうと考えさせられた、今回の愛媛の全国大会に参加した私の感想だった。

最後になりますが、大会前日の台風二十六号で、関東ブロック東京都大島町の商工会女性部員の方がお亡くなりになり、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

研修委員　加藤みち子

献血運動

八月二十八日（水）猛暑の中、調布駅南口にて日赤のお手伝い、献血の呼びかけ協力をさせていただきました。

毎年暑い中での協力なのですが、今年は特に猛暑続きで記録的な暑さでした。内心この暑さの中で献血に応じて下さる奇特な方がいらっしゃるのか・・・と思っておりましたが、

学生さんはじめ、意外と若い方、中年の方も協力して下さいました。中には高校生のお嬢さんが「いくつから献血できますか？」と聞かれ、「何才ですか？」と聞くと、「十六才です」とのこと。日赤の方に伺ったら、満十六才以上六十四才ぐらい迄で、六十四才より以前に献血していれば六十九才迄出来るとのことでした。すぐに答えられず不勉強を反省…でも心の中は感謝とあたたかい気持になり、日赤職員の方のマイクでの呼込みなど、一生懸命さや益々の献血の大切さを改めて思いました。

若い時は主人共々時々献血出来たのですが年齢制限、血圧降下剤の服用で最近は提供出来ませんが、孫達にも機会があったら協力するよう伝えていこうと思いました。

研修委員　田中良子

共同募金事務協力

総合福祉センターに於いて、各自治会他に配布されるチラシ、募金袋を指サックを付け枚数を数える。数千枚の束を百枚の束にしていく。

根岸部長をはじめ会員八名と事務局とで無心、無口に作業をする。

しかし、途中おしゃべりをすると枚数を数え間違えてしまい、数え直す。

ベテラン揃いで仕事が早いが、暑い日に加え、あまりクーラーが効かない部屋での作業でした。

協力頂いた皆様ご苦労様でした。

副部長・広報委員長

大竹勝子

第九十七回日本陸上競技選手権大会の出店に参加して

皆様、初めまして！新入部員の椎名と申します。

昨年十一月に入部させて頂き、初めてのお手伝いとして六月九日(日)午後の部に参加致しました。

まず、四月に根岸部長より、販売する品の選択、単価、購入先等の、出店に対する熱い思いをお聞きし敬服。

その後、松村副部長のお店で役員の方々の、細部に至る意見交換、調理方法の練習を見学に伺い、皆様の真剣な雰囲気に圧倒されました。

そして当日は猛暑日にも拘らず、休憩もせずに、お餅・フランクフルト・お好み焼きを担当された先輩方。

ギャルにも負けず劣らずの響き渡る声で呼び込みをして下さった先輩方。

体調不良でお疲れの筈なのに、笑顔でお客様対応をされていた先輩方。

最後は、最終日故、全員一団となり販売に気合い注入(^^)

締めは、やり遂げた安堵感で笑顔の記念撮影！

当初は私らしからぬ？緊張感と不安感で一杯でしたが、先輩方の若々しいパワーと、優しさを痛切に感じた、楽しいアッと言う間のひと時でした。

今後も皆様方にご指導を仰ぎ、色々な事業、催事に参加させて頂きたいと思います。そして、先輩方のように"思いやり"の気持を忘れずに、地域社会に貢献できる、商工会女性部員として、前向きに頑張りますので、今後共宜しくお願い申し上げます。

今回は、貴重な体験をさせて頂き感謝・感謝です。

ありがとうございました！～入部して良かったぁ～(^^)

椎名桂子

商工まつり チャリティーバザー 値付け作業にかかわって

平成二十五年九月三日（水）商工会三階に於いて午後一時から恒例の値付け作業を開始。

まず、テーブルの上に多数の皆さまからご協力頂き、集めて頂いた品物を広げ食器類、衣類、アクセサリー、洗剤、タオル等の種類に分類し、品物に値札の取付け作業から数量などの集計を行ってもらいました。

しかし、昨年より、数量が少ない等感じつつ終了する。

ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

副部長　大竹勝子

※今年度の商工まつりは、九月十五日・十六日の開催でしたが、台風十八号による荒天のため中止になりました。

女性部員の皆様にはチャリティーバザーへの品物のご提供や値付け作業にご協力頂きありがとうございました。ご提供いただきました品物につきましては、調布市社会福祉協議会に寄付させていただきました。

また、品物の保管につきまして、寄付するまでの約三ヶ月間、増田幹事のご自宅の倉庫にて無償で保管していただきました。誠にありがとうございました。

事務局　内倉

スポーツ祭　東京二〇一三

「いらっしゃいませ‼」と若々しく通る先輩方の呼び込みの声。十月五日・六日、スポーツ祭東京二〇一三（国体）を盛り上げるための出店に参加した。

味の素スタジアムのおもてなし広場は、朝からの雨にもかかわらず賑わっていた。

販売品目は、ふみ焼（お好焼）、みそ田楽、フランクフルト、生ビール、飲み物。すべて味に自信ありの品々だ。私はふみ焼を担当したが今回は二回目、火加減をみながらしっかり焼くよう心がけた。生地やソースは、松村副部長秘伝の味でとても好評だった。行列ができる事もあり、あたふたしてしまうが、有難いことだ。

接客でも商工会女性部ならではのおもてなしの心が伝わったと思う。待っていただいている間にも、「どこから来たの？」「金沢から」「あ、和菓子は森八ね。旅館は加賀屋！」そのかけあいに聞き惚れてしまった。

日本各地からの選手の皆さん。力を出し切りながら負けてしまった方々にも「負けるが勝ちよ！次があるから。」と励ましの声。

ところで、出店準備や設営では、部長、副部長を中心に、皆様方の御苦労を考えるといつもながら頭が下がる。疲れたけれども元気をもらった出店参加だった。

広報委員　石井恭子

新年研修会・新年懇親会

平成二十六年一月二十七日（月）調布市商工会女性部新年研修会・新年懇親会がクレストンホテルで開催されました。今年はお忙しい長友市長さんにもご出席いただけるとの事で喜んでいましたが、五日前より根岸部長が体調を崩し緊急入院してしまいました。打合せはしていたものの根岸部長不在の上、講師の先生にお逢いするのも初めてでどうなることかと心配しましたが、部員の皆さんが集まり始めると、すぐにいつもの活気と華やかな女性部の会になり、安心しました。

研修会は講師にかとうれい子さんをお迎えして「歌手からみた調布のまち」と題して歌とお話をいただきました。かとうさんは「絵はがき」という歌が「ＮＨＫみんなのうた」で四ヶ月間放送され、「昭和の香をはこぶ歌姫」として注目されています。生で聴くれい子さんの歌声は透明感にあふれ、昭和の風景が懐かしく思い出されました。その中でも手話で歌う「絵はがき」は特にすばらしく、心が癒され胸がいっぱいになりました。調布を愛し調布の風景が大好きというれい子さんの趣味は蟻の観察とか。また、かっぱ捕獲の資格を持っているとか。そして時間が出来ると多摩動物園と調布市立中央図書館に行くのが楽しみなどというお話をいただいて元気をいただきました。

余韻を残しながら二部の懇親会に移りましたが、今年はご来賓に長友市長を始め、いつもお世話になっている調布市文化スポーツ部産業担当八田部長、商工会原島会長、柳澤副

会長、福谷副会長、青年部齊藤部長、事務局安立局長など、たくさんのご来賓の方々と多数の部員の皆様をお迎えしてなごやかな懇親会が行われました。

長友市長さんのごあいさつにはこの二、三年の間に調布駅周辺を中心に布田、国領、西調布、飛田給と大きく変わっていくとの力強いお話と、オリンピックに合わせて味スタ近くに大きな施設が二棟も出来る事等、お話しくださいました。これから調布がどのように変わって行くのかと期待がふくらむお話でした。

その後、かとうれい子さんにもう一度「絵はがき」を歌っていただきご来賓の皆様にも聴いていただきました。宴たけなわになったところで、市長さんに〝わが町調布〟(調布市民の歌　調布市内では毎日流れているそうです)を歌っていただけるようお願いし、市長さんのすばらしい歌声を聴かせていただくことができました。その後調布の名所がビンゴになっている林副部長のアイデアのビンゴゲームを楽しんでいただきました。

根岸部長の一日も早い回復を祈りながら実りある新年会ができたことを感謝するとともに、今年も皆様のご理解とご協力をいただき、女性部が一つに結束して一歩でも前進できたらとの思いでいっぱいです。

皆々様のご健康をお祈りしながら今年も宜しくお願い致します。

副部長　松村徳子

一泊研修に参加して

平成二十五年度の一泊研修として、「関東ブロック商工会女性部交流研修会」に参加することになりました。

参加者は会長　原島芳一氏、事務局長　安立千鶴子氏、事務局　内倉千明氏、以下部員十二名の計十五名です。

観光バスに乗り、東北道を栃木をめざし走ります。季節は梅雨でしたが幸いにも天候に恵まれました。最初に到着した「那須お菓子の城」で昼食をとりました。私は二度目でしたが、名前の通りいろいろなお菓子に目を奪われ、お菓子に目のない私は童心に帰る様にお菓子を堪能しました。

いよいよ会場の栃木県那須町の那須文化センターに到着です。バスが着くなり、主催の栃木県商工会女性部連合会の皆様による温かい歓迎で迎えていただきました。会場も熱気に溢れ、和太鼓の演奏、那須の与一他、黒田節の剣舞に一同和やかさを増したところで、いよいよ各県代表の女性部員がテーマに合わせた活動内容を発表します。

今回のテーマは女性部活動と地域振興、街作り等活動している状況についてです。しかし、この大きなテーマを所要時間十分以内にまとめなければなりません。さらに、論旨が明確で説得力があり、分かりやすさ、表現力、好感度などが問われます。

各ブロック代表が発表するごとに応援も熱気をおびていきます。東京は東久留米市商工会が代表となり、「街作り　つるしびな巡りと、ふすまどれーぬに願いをこめて」と題してつるしびなを飾った町の動画をバックにテンポよく街作りの状況を発表されました。

各代表十一名の内「女性部活動に参加して次世代を担う女子達の勉強会」というテーマで、街作りの状況を発表されました静岡県菊川市商工会が有終の美を飾りました。

各女性部の素晴らしい発表を聞くことにより、もし調布が代表になったら何を取り上げようかと考えつつ会場を去りました。

その夜はゆっくり温泉につかり、美味しい夕食を頂き親睦を深めることができました。

次の日はあいにくの小雨に見舞われましたが、那須殺生石・那須フラワーワールド・道の駅・チーズケーキ五峰館・千本松牧場と巡り、調布に無事の帰路となりました。

参加者一同和気あいあいの二日間の研修旅行を経験し、今後の活動に活かしていきたいと心を新たにすることができました。

研修委員　白井嘉奈子

日帰り研修会

今年の日帰り研修会は、東京下町と、田崎真珠さんの見学でした。

スカイツリータウン、ソラマチ視察では、初めてスカイツリー展望デッキまで登りました。ガラス床部分は、遥か遠い足元を見下ろすことができ、大丈夫だとわかっていても、恐る恐る床を踏んでしまいました。

水上バスで隅田川を下り、日の出桟橋へ、お昼は久兵衛本店でお寿司のランチ、ちょっと緊張しましたが、素敵なお皿でおいしいお寿司を堪能できました。

ジュエリーセミナーで一番に教えていただいたのは、二〇一一年に田崎真珠から株式会社ＴＡＳＡＫＩへと社名を変更されたことでした。真珠だけでなく、ダイヤモンドの売り上げもかなりの割合を占めているので、社名から真珠を外したとのこと、覚えておかなくては…

真珠の品質についてのお話では、今の環境の変化が、真珠の品質を著しく下げているので、昔の真珠に比べ最近のものはテリや巻きが非常に悪いとのこと。勉強になりました。

そして一番の驚きは、ジュエリーを買う気〇%だった私が、詳しい話を聞くうちに、予算があれば買いたいという気持ちに変わっていたこと！営業の極意を見ました。

私ももっと稼いで、すてきなジュエリーを買える女性になりたいと思いながら帰路につきました。

研修委員　木全知帆

平成二十五年度 東京都商工会女性部連合会 新春講演会・新年賀詞交歓会に参加して

二〇一四年二月七日（金）に行われた東京都商工会女性部連合会　新春講演会・新年賀詞交歓会は、初めて調布市での開催となりました。二十四市町村百十三名の参加する毎年恒例の会は穏やかに開かれ、開催地である調布市の商工会女性部は前列に席が設けられ、いつもの年とは趣の違う会を予感させるはじまりとなりました。

新春講演会は東京都商工会女性部連合会会長の挨拶に始まり、来賓祝辞・来賓紹介と舞台間近に接する空気感は今までに無い親近感に包まれ、講演会は演題「ふるさとへの想い」と題し、女性歌手の紅　晴美さんが講師でした。参加者の部員の方々と同年代のパワフルレディ？おばさんの第一印象は、衣装の華やかさと大きな声・声量に圧倒されつつ、巧みな話術と表現力に多いに笑い、参加部員を魅了する講演となりました。

紅　晴美さんの歌手人生は中高年からのスタート、人との縁により今日があると語られ、その人間性と面白さ・歌の迫力と歌唱力には一見の価値を感じる程でした。

三・一一東日本大震災の当日のコンサートの出来事は、当事者・被災者ならではの真に迫る恐怖と、急な災害時でのサービス業に従事する人としての生き様の凄さを語られました。

また、その後の被災地支援と応援する日々の行動の重要性についても、その時だけでなく継続的な支援と応援の必要性を自ら行っている姿に感銘と尊敬をいだく講演となり、つらい実体験をも笑顔で語る話術とサービス精神は、参加する会員達に活きた学び、そして勇気を与えてくれた様に感じます。

一人の女性「おばちゃん」の生き方が、心に温もりを宿す力こそ、これからの商工会女性部活動にとっても大いに役立つ体験と言えるでしょう。

これからの女性部活動は、新時代に向い、次世代型の女性部活動の担い手との連携・主な活動の推進と商工業を取り巻く環境は一層厳しい中、人の温もりを大切に再来年の調布市商工会女性部三十周年に向け、これまで以上に活動を充実し邁進する意義を再認識させてくれた「平成二十五年度東京都商工会女性部連合会　新春講演会・新年賀詞交歓会」でありました。

今後とも心の和と人の縁を大切に、共に支え合う商工会女性部の一員としての誇りを持ち、自身の事業に邁進しつつ、今まで以上に女性部活動に積極的に参加して参りたいと感じた会でした。

副部長　林　清子

調布探訪第十七弾
クリーンプラザふじみ施設見学
～三調（さんちょう）めエントツくん～

皆さんのゴミ処理施設のイメージはどんなものだろうか・・・それは、今までの概念を覆す素晴らしいものだった。

二月二十六日に訪問したこの施設は、三鷹市と調布市の可燃ゴミを焼却処理するために建設され、平成二十五年四月に稼動を始めた。発電設備を併せもち＝ゴミはエネルギー＝を実感させられた。

各地からこの最新の設備を見学に訪れた人は昨年一年間で七千人。調布市では、小学四年生が訪れ学びの場になっている。広い通路にはパネルが展示され＝限られた資源を守るために循環型社会を目指す必要性＝をわかりやすく説明している。また、「プラ美ちゃん」「ペット君」などのキャラクター入りのゴミ箱を並べ、実際にゴミの分別を体験する。水銀を含む有害物（乾電池、体温計など）の混入で炉が停止してしまい復旧までに莫大な費用と期間がかかった例、ペットボトルの蓋を閉めて出すと潰れずに＝空気を運搬してしまう事に＝蓋を外して出す事が大切。又、ペットボトルはポリエステル繊維に再生されるため、二リットル十一本分で出来た作業着も展示されていた。混ぜればゴミ、分ければ資源ですね。

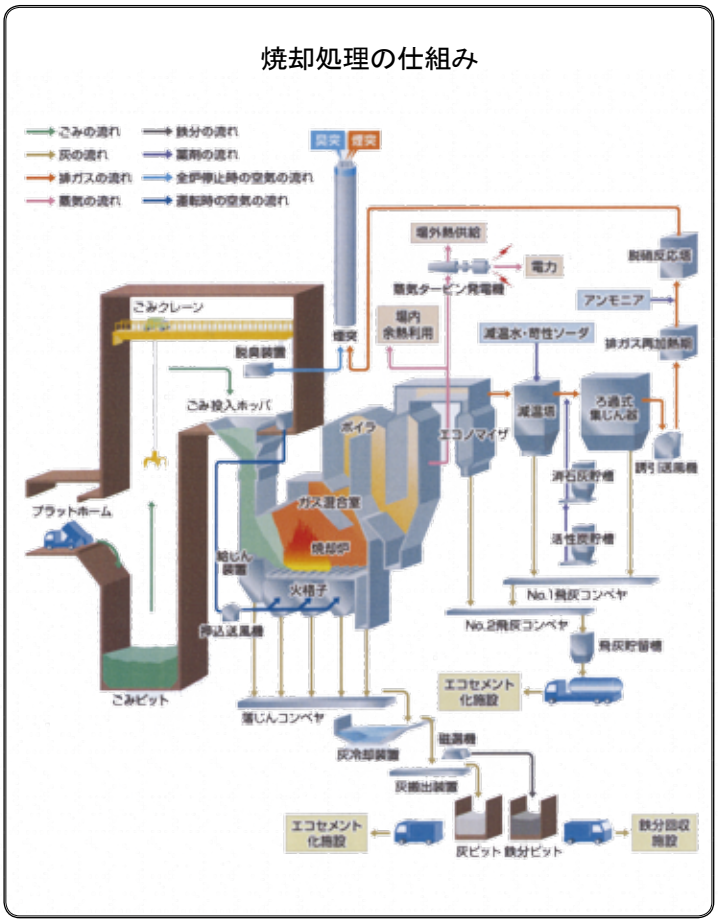
施設内は図の通りで、七日分のゴミを貯められるピット内では、三ｔものゴミを移動する巨大クレーンが上下し、ゴミを燃えやすく攪拌している。その様子に子供達はくぎづけだそうだ。

今回の見学で私が感心した点は、第一に、よく問題となる排ガス中のダイオキシン濃度だが、燃焼のために送られた空気は、高温（八五〇℃）で処理されるのでかえって濃度が低くなって放出されるという事。第二に、焼却で発生した熱で発電し電力会社などに売電している事。一万二千世帯分の電力が賄えるという。原発もいらなくなるのでは？第三に、焼却残渣の最終処分場が必要ないという事。灰はエコセメントとして、スラグ（骨材）・メタル（溶融金属）は売却されリサイクルされる。

ただ、ゴミの減量は絶対条件、未来に続く社会のために私も充分気をつけたいと思う。

最後に、見学に際しわかりやすく丁寧に説明して下さった職員の皆様に感謝申し上げます。

広報委員　石井恭子



編集後記

一年間行事に沿って、女性部の方々から原稿を頂いてまいりました。

ここに、たつくり第二十九号を無事完成することが出来ました。ひとえに部員の皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。